

1. 事業の目的・経緯

里山フィールドでは、平成 18 年(2006 年)より続けている里山保全活動を継続して行い、県青少年本部のプレーパーク事業「里山ガーデン子どもの冒険ひろば」の開催、里山散策学習会「はりま里山の自遊人」、その他地域交流事業により、地域の住民や子どもたちに里山や身近な環境に対する意識の向上を図ることを目的とする。

研究所では大人から子供対象までの講座を開催し、さまざまな環境問題について専門講師に解説いただく。

2. 事業内容

定款に掲げる特定非営利活動事業の中で②地域における環境にかかわる調査・研究・企画・教育事業を中心とし、平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月の間に活動を行った。

事業は、①里山保全活動 ②はりま里山の自遊人 ③里山ガーデン冒険ひろば ④サイエンス・カフェ ⑤キッズ・サイエンス・クラブ ⑥地域交流事業 ⑦研究活動 ⑧連携教育活動支援 ⑨「海と空の約束プロジェクト」との連携活動 の 9 項目である。

① 里山環境保全活動

今年度は住民参画型里山林再生事業の補助金で新たな散策路 2 か所(375m)を整備し、危険木の伐採や作業運搬車の購入、整備活動や里山の体験イベントのための休憩設備の場所の整備、テント設計等を行った。

「定例里山保全活動日」として、毎月第 2 日曜 9 時より 1 1 頃まで実施。森林や散策路の手入れと管理、遊具の管理や修繕などを行った。参加人数のべ 61 名で作業参加人数は昨年度より減少した。

また里山地域づくりカフェを 8 回開催し 121 名の参加者があった。

入学式	7 月 25 日(土)
里山の植生と管理 1 (講義・座談会)	8 月 8 日 (土)
里山の植生と管理 2 (実習)	9 月 12 日(土)
里山づくり WS	10 月 3 日(土)
里山と生き物 (講義・座談会)	11 月 14 日(土)
里山と野生動物 (講義・座談会)	12 月 5 日(土)
里山と農業 (講義・座談会)	12 月 12 日(土)
まとめと提案の座談会・修了式	1 月 9 日(土)

② はりま里山の自遊人

年 4 回・四季ごと(4・7・9・1 月)に開催。

講師：日本自然観察指導員・奈良吉也氏、ひょうご森のインストラクター・薮口康彦氏。

里山を散策しながら五感を使って様々な自然体験を行う自然観察学習会で 27 年度は 4 回実施し参加人数 30 名

③ 里山ガーデン冒険ひろば

4 月より毎月第 4 日曜日 10 時～15 時開催。

「自分の責任で自由に遊ぶ」をコンセプトに、プレーリーダーのサポートのもと、子どもたちは里山を思い切り満喫。常時開催であるが兵庫県青少年本部の補助金を活用したプログラムでは原則月 1 回プレーリーダーを配置してプログラムを実施。木工教室など子どもが楽しめるプログラムの他、焼き芋づくりなども用意した。

他の春や夏のイベントと同時開催し、また学生団体の取り組みもあって楽しむことができた。

またリーダー講習会を実施した。

プレーリーダー配置のプログラムは 15 回実施し、参加人数のべ 573 名

④ サイエンス・カフェ

第 2 日曜の午後に開催。

5 月「つながりづくりの科学」NPO 総会記念講演

7 月「オオサンショウウオの生態度現状」

2 月「手計算で学ぶ気候予測の仕組み」学生団体と共催

3 月「身近な海辺と海洋生物」学生団体と共催

テーマや講師の雰囲気イメージした手作りスイーツも好評いただいた。昨年度と比べ開催回数が年 4 回と減少した。サイエンスカフェのアピールが不十分だったと考えられる。また予算がない状態での開催についても問題が残る。

⑤ キッズ・サイエンス・クラブ

国立青少年教育振興機構の助成金である子ども夢基金による事業を行った。

07/22 水 10:00-16:00 科学工作と実験1「楽器作りと音の科学」

08/04 火 13:30-15:00 科学工作と実験2「いろんな動くおもちゃを作ろう！」

08/22 土 10:00-12:00 科学工作と実験3「虫型のおもちゃ工作」

09/13 日 13:30-15:00 化学工作と実験4「昆虫標本作り」

11/08 日 13:30-15:00 科学工作と実験5「放射能を観察しよう」

12/20 日 13:30-17:00 科学工作と実験6「太陽光パネルとペアグラス作り」

屋外（里山）と屋内（研究所）の2か所を使いわけ、わかりやすく内容の濃い環境学習を目指している。

スタッフ以外の参加人数のべ125名

その他姫路市の環境学習「春見つけ隊」の協力

⑥ 地域交流活動

「さくら・つつじ祭り」、「オープン・ガーデン」、「秋の里山祭り」を実施した。参加人数延べ900名
また、第4回ジャコウアゲハサミットを後援し同時に理事長の基調講演も行った。

福島の子どもを招きたい！明石プロジェクトの活動の協力で福島の小学生の訪問があった。

⑦ 大学等との連携活動

兵庫県立大学環境人間学部のフィールドワークおよび特別フィールドワーク、環境生物学実験と連携し、里山フィールドや研究所施設の活用を行った。

また、課題別教養科目「兵庫の里山」での活用、エコ・ヒューマン地域連携センターの学生活動との連携活動支援（木の子、STEP、いきものずかん）、県立加古川南高等学校との連携教育（インスパイア・ハイスクール事業）、兵庫県立大学附属中学校のフィールドワーク、香呂南小学校、城見ヶ丘保育園のフィールド活動支援を行った。

⑧ 「海と空の約束プロジェクト」との連携活動

里山でのイベント内で環境紙芝居『海と空の約束』の読み聞かせや普及支援を行った。

3. 事業の成果

①これまで同様、里山の保全活動を行うことにより、森林の環境が保たれ、遊具の修繕により子どもも安全に遊ぶことができた。また、保全活動を定期的に行うことによって、地域の方の参加を得ることに繋がった。新たな散策路を延伸したことで日々の遊びや散歩などで地域の方々や小学校での活用が増えつつある。

②身近な里山で四季を通した環境学習により、近場での自然環境の素晴らしさを体感してもらうことで、地域の方の里山を大切にしたいという気持ちがより深まったのではないかとと思われる。

③自然体験が難しくなっている現代の子どもたちにとって、住宅街の一角にあり交通の便も良い里山ガーデンはとて行きやすく、外遊びも満足できる場所ではと思われる。

保護者にとっても自然の中で子どもと過ごす楽しみを見つけてもらえたように思う。

④今まで学習の場に触れることが少なかった一般の方に、アットホームな雰囲気でも専門的な環境学習を行うことによる学習効果は高く、環境に対する意識向上に繋がった。

⑤里山と研究所という室内外のフィールドを使い分け、生の体験学習を行うことにより、子どもたちの心に残る環境学習を行うことができた。学校等の教員などの講師と親しく交流することは、子どもにとって大変良い経験となると思われ、保護者の評価も高かった。

⑥地域交流の開催で、里山の存在価値などのアピールになり、里山環境保護の意識向上につながるとと思われる。

⑦研究関係は十分な活動が展開できなかったが3種の助成金・補助金の獲得により活動はさらに展開できた。

⑧大学連携では学生の社会貢献活動や教育に寄与することができた。

⑨里山での活動が姫路市広報誌（2015年11月号）やケーブルテレビで紹介された。

4. 事業活動の問題点と解決策

学習会実施にあたって、会場の案内を工夫する必要がある、のぼり旗や案内表示を増やすなどしたが住宅地内の事情により掲示を縮小せざるを得なかった。

JR等の公共交通機関を使った参加も可能だが車で来られる方も多く、駐車場確保が問題となり20台の駐車場を確保したが秋の里山祭りでは予想外の来場者数で対応しきれなかった。

活動に必要な運営費、管理費の確保が必要となった。

後半、事務活動が停滞し事業の進行・事務処理に大きな支障があった。事務員の補充が必要である。